



此後お件のまゝ一と投簡しめ  
 実と驚る乃れ彼等よの心感世終に  
 及びて別い意具のし存れ世之場  
 小のぬまぞの腐る乃れいふとん  
 持たぬ一ゆらぐ世よのまはれあるま  
 少まな唯く一退して彼ちが一月後  
 のまはれを越ゆのこゝろに

此の電伝はヤミ伝と持く可かざる  
 かりに考へぬいゆ一伝ははるま  
 通すよふにあらず一ヶ月前は一廉  
 老成なる勢して彼等の一老を白眼視  
 一能力も今も浮世よ大隨を

病癲疾<sup>多</sup>病の可麻入道とえ下げ果  
 病がらげけに浮のい流はあるま





老成なる類にして、俗人の一党を以て白服祝  
し、能くも今も浮屠の大方隨之なり

臨がらむけに浮の沙灘はありませ

瘋癲<sup>後</sup>病の三麻入道とえ下げ果

申作

下去老乞の女きは階越内に織うると

雖もおは流る遠信に——其遊をきん

さらぬ作はた先れ教り——まははあ

と考——其力の所也、唯は眉山の未

業上戸へ行程に——作はる、将身をか

——こは電回らあ作やの事はあ、ま

い眉山はまのやりに繁くまはる

膝は一人も老乞にわのまをよや

少きが考まごは一週よりまよいあは

日効強の坊らあうらひのそ度おあ

らむと淺とる——ま見とわのよはま

さるこしあまはさるる眉山が脚のき

まはあぬまのし——流ふはるる、動お

河に酔つてひまろ——漫遊する朋か

形をさるる室の母——漫遊する朋か

世るも恨の切かここはな下取をり

栲舟も流りさるるすり——まはる







本丸

# 忘曲法呼

大詩人

例の諷書事件其考りて一以不斷然

推致すまよきかづれ其理由は

カ一大不貞溺の事。堂々として抑鬱に

■たゞ思ふもの安ど一河の彼をき聲六

の席は列して頼め的岸動と示すべき

のうらみ心や此傷はありものは重んず先

生のこゝろ多分の哀れにあり難し甚

道よありざれば之を辭するは何のありむ

理固より之を辭すべきのこゝ。兄の世良

我と云ふものこゝ想のよ自やの熱をこゝ

ま— 彼を怨むる神と抑りの熱をこゝ

と我を熱むる事りて自為の栄

を考へむとの志のまがふららむか。

か— 妙々むと予ふ敢と難し他日之の為に  
えう自の心強とね悔復するの弟を解  
せざらむや— 男子苟も事を考す  
望取て他人の背を藉らむ也平也

セナカ



豈敢て他人の背を藉らむ也平地

予は竊に浮の者、御事事件の不見  
瀕を去るの予、可く遠く、鼓を鳴らして  
秋毫とせざる、假き、くりま、ひ、を、さ、令  
と翻て、まの、不、潔、不、潔、る、**唾**、**舐**、唇、の  
可く、嘗、と、席、を、同、ら、う、て、江、戸、生、粹、ま、書、の  
れ、形、を、汚、す、ま、恐、び、こ、や、一、る、吾、の、郷、に、還、る  
の、後、築、が、万、之、妻、く、る、こ、と、彼、此、の、間、に  
異、を、以、て、~~其、の、時、を、あ、て~~、其、の、時、を、あ、て  
之、妻、は、何、の、由、自、あ、り、て、**錦**、**袍**、一、時、の  
數、語、を、え、ひ、く、し、る、や、**唾**、**集**、ま、る、の、唾、美  
と、猶、可、恐、也、**於**、**取**、**妻**、子、**磅**、**礮**、**を**、**る**、**箇**  
一、箇、の、西、を、**祈**、の、如、き、い、と、孝、何、せ、む、の、  
不可、恐、也、美、予、れ、於、**取**、**妻**、子、**を**、**る**、**辛**、**か**  
如、世、**乃**、**行**、**か**、**む**、と、**故**、**す**、**む**、**行**、**け**、**や**、**四**、**法**  
~~中~~、**ま**、**燈**、**之**、**下**、**指**、**法**、の、**皮**、**を**、**嚙**、**む**  
~~す~~、**法**、**美**、**を**、**拵**、**る**、**別**、**よ**、**大**、**詩**、**人**、**の**、**在**、**る**、**あ**、**ら**  
~~す~~、**夜**



で去美を採る、別よ大侍人の在るあり  
す夜

馬廉野寛

錦一斎甚味

代理人

五日後物件の買付後議決事  
の事之うは早速いび了取事

三十一日

判事 芝之不好

三倉 判事 鼻野洪





紅葉書簡(水陰苑) 四通

本間文庫

文庫 14

C65

